

健発1107第2号  
平成30年11月7日

一般社団法人 日本医療法人協会 会長 殿

厚生労働省健康局長  
(公印省略)

「リウマチ等対策委員会報告書」について

リウマチは、自己免疫により生じる関節滑膜の炎症を特徴とする全身の炎症性疾患です。女性に多く発症し、患者数は約60～100万人と推定されています。リウマチは、治療期間が長く、重症化すると軟骨や骨が破壊され、関節が変形し、日常生活や生活の質の低下を招き、介護対象となる等、社会的負担が大きな疾患です。

我が国では、「リウマチ・アレルギー対策委員会報告書」（平成23年8月）に基づき対策を講じることにより、メトトレキサート・生物学的製剤による有効的な治療方法が標準化され、早期診断・早期治療により、疾患活動性を低く保ち、関節破壊を防ぐことが可能となってきました。今般、リウマチ対策の更なる推進を目指して、平成30年3月から「リウマチ等対策委員会」を開催し、今後の対策等について検討を行い、対策の全体目標を「リウマチ患者の疾患活動性を適切な治療によりコントロールし、長期的なQOL（生活の質）を最大限まで改善し、職場や学校での生活や妊娠・出産等のライフイベントに対応したきめ細やかな支援を行う」と設定し、別添のとおり報告書を取りまとめました。

これを受けて、別紙のとおり都道府県知事・政令指定都市市長・中核市市長宛てに通知したのでご連絡いたします。

貴職におかれましても、本報告書の内容について十分に御了知の上、関係団体及び関係者に対して周知を図っていただきますよう、よろしく願いいたします。

健発1107第1号  
平成30年11月7日

都道府県知事  
政令指定都市市長  
中核市市長

殿

厚生労働省健康局長  
(公印省略)

### 「リウマチ等対策委員会報告書」について

リウマチは、自己免疫により生じる関節滑膜の炎症を特徴とする全身の炎症性疾患であり、女性に多く発症し、患者数は約60～100万人と推定される。リウマチは、治療期間が長く、重症化すると関節の変形、軟骨や骨の破壊が生じ、日常生活における生活の質(QOL)の低下を招き、要介護状態となる等、社会的負担が大きな疾患である。

我が国では、「リウマチ・アレルギー対策委員会報告書」(平成23年8月)に基づき対策を講じることにより、臨床症状・血液検査・画像検査による早期診断や、メトトレキサート・生物学的製剤等による治療法の進歩により、疾患活動性の低い状態を保てるようになってきた。今般、リウマチ対策の更なる推進を目指して、平成30年3月から「リウマチ等対策委員会」を開催し、今後の対策等について検討を行い、対策の全体目標を「リウマチ患者の疾患活動性を適切な治療によりコントロールし、長期的なQOLを最大限まで改善し、職場や学校での生活や妊娠・出産等のライフイベントに対応したきめ細やかな支援を行う」と設定し、別添のとおり報告書を取りまとめたところである。

貴職におかれては、本報告書について十分に内容を御了知の上、貴管内の市区町村、リウマチ対策の関係団体、関係機関等に対して周知するとともに、地方公共団体や関連学会、関係団体等の関係者が一体となり、地域の実情に応じて、本報告書に基づき、①一般医療機関と専門医療機関等の連携の推進、②一般医療機関等に対しての情報提供、③リウマチ患者の病態の認識を職場や学校等に普及する等のリウマチ対策に取り組んでいただきたい。今後、全国健康関係主管課長会議等において、全国の好事例を情報提供することも検討しているところである。そのため、貴職においては、地域の事例について状況を把握し、厚生労働省に報告いただくことも想定しているので、ご協力いただきたい。なお、これらの取組に係る経費については、リウマチ・アレルギー特別対策事業の補助対象としているので、積極的な活用をお願いする。